

令和7年度 職員向け事業所自己評価（児童発達支援）集計結果

公表日 令和8年 2月 16日
職員5名全員から回収

事業所名	チャイルドステーションつうゆう				公表日	令和8年 2月 16日	職員5名全員から回収
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援等のスペースとの関係で適切であるか。	5		まだ利用定員に余裕があるので、十分なスペースが取れていると思う。また、学習室や運動サーキット、遊戯室など、目的に応じた部屋を設ける工夫をしている。	適切であると思っているが、今後必要があれば改善する。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	4	1		現状では何とかなっているが、利用者・回数が増えるにつれて職員を増やしていくつもりである。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4	1	生活空間について、片付け・遊び・読書・運動などの場所を家具の配置や絵カードで視覚的に分かりやすく示し、こどもにとって理解しやすい構造化された環境を整えているが、利用者に応じて必要があればさらに環境調整を行うようにしている。	バリアフリーに完全には対応できていないと思う。玄関やトイレに手すりが必要と感じるときがある。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5		建物自体は古く清潔感が十分とは言えないものの、清掃・消毒・換気を徹底し、整理整頓にも努めながら、ソファや床上、学習机などを活動に応じて使い分け、さらに遊戯室だけでなく相談室や会議室もこどもの人数や活動内容に合わせて効果的に活用している。	今後も、清潔で、心地よく過ごせる環境、子どもたちの活動に合わせた空間を維持するように努力する。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5		クールダウンや過敏さ・不注意への配慮として必要に応じて個室を活用し、家庭学習や一人で静かに過ごしたい場面など、こどもの状況に応じて適切な部屋を柔軟に選択している点が良いと思う。	今後も、子どもの状態に応じた環境設定に努める。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	4	1	開設したばかりの事業所で職員数もまだ多くなく、炉辺の会話で情報交換をして自然にPDCAサイクルは成立していると思う。	都度、口頭や書類での情報交換を行っているが、もっと組織的に行うようにして充実させたいと思う。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		評価表はもちろんのこと、おたより帳や送迎時の会話の中でニーズを伺い、意向のすり合わせを行っている。	初めての保護者から評価を得るが、その結果に応じて業務改善につなげるつもりである。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		都度、口頭や書類での情報交換を行い、改善に向けて検討している。	今後もこの項目内容を達成するように努力していく。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		5		第三者による外部評価・評価結果を業務改善につなげいくことは有効だと思う。今後検討する。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	5		外部からの研修の案内は都度周知されている。	研修の充実については今後取り組んでいきたい。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5		ホームページで支援プログラムを公表している。	ホームページで支援プログラムを公表している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	5		モニタリングやアセスメント結果、普段の活動の様子を分析し、支援計画を作成している。	この項目内容については力を入れており、子どもの観察、保護者家族との情報交換、諸検査の実施等のアセスメントを行って分析し、児童発達支援計画を作成している。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5		都度情報共有し、常に共通理解の下、計画を作成できている。	そのようにしているつもりであるが、今後も共通理解に努める。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5		いつでも支援計画の内容が確認できるようにしている。	そのようにしているつもりであるが、今後もこの項目の内容が達成されるように努める。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	3	2	気になる行動があった際は、都度職員間で情報共有し、対応を検討している。	日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを行っている。適応行動についての標準化されたvinelandⅡの利用を試みており、今後本格的に活用する予定である。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5		この項目の内容が達成されるように努力している。	この項目の内容が達成されるように努力を継続する。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5			そのつもりではいるが、今後もより努力していく。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5			している。今後もより努力していく。	
19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	5			している。今後もより努力していく。		
20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5			している。今後もより努力していく。		

	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4	1		職員の勤務時間の関係で必ずしもその日のうちではないが、共有している。今後より努力していく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5			している。今後より努力していく。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5		半年に1回、モニタリングやアセスメントを通して、計画の見直しや継続を判断していく。	している。今後より努力していく。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5		本事業所を利用していることに関する会議に状況をよく理解した職員が出席しているので、良いと思う。	している。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5			当事業所は連携を行う努力をしている。今後より有効で現実的な連携をするように努力する。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5		保護者を通して、各種施設と情報共有・交換を行っている。また、必要に応じて参観に出たり、参観の受け入れをおこなっている。	この項目の内容が実現できるように努力しているが、今後より有効で現実的な連携をするように努力する。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5		昨年7月開設の事業所であり、今、この支援が必要になってきている利用者さんについて情報共有の努力をしている。	昨年7月開設の事業所であり、今、この支援が必要になってきている利用者さんについて情報共有の努力を始めてきており、今後必要に応じてしていく。
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)				
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	3	2	現状そのような状況になっていないため分らないが、必要に応じて連携を図っていく。	相談事業所を通じて児童発達支援センターと連携している。むしろ、他の児童発達支援事業所と有意義な連携をしている。今後も継続していく。
32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	2	3	今のところない。	今のところないが、そういった交流をする機会を設けることを検討する。	
33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5		送迎時の情報交換や連絡帳等を通して、こどもの発達の状況や課題について共通理解を丁寧に図っている。	送迎時の情報交換や連絡帳等を通して、こどもの発達の状況や課題について共通理解を丁寧に図っているのは良いと思う。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	2		必要性を感じるケースはあるものの、家族の意向を勘案し慎重に検討していく。ニーズに応じて情報提供は行っていきたい。	
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5		見学時や利用契約をする際に、十分な時間を取り丁寧な説明がなされている。	今後丁寧な説明を行う。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5		計画を作成する際に、保護者の意向と必要な支援についてのすり合わせを行っている。	今後ともいぬいに行っていく。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	5		適切に行い、同意を得ている。	今後ともいぬいに行っていく。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5		相談があった際は、面談を行っている。 見学時や送迎時の情報交換、日々の連絡帳等を通して、保護者の思いを丁寧に受け止めながら、必要な助言や支援がなされている。	随時行っており、今後も継続していく。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	2	3	機会を設定することはしていないが、同時帯に利用の保護者同士の交流の場となっている。きょうだいが同伴している際は、声掛けを大切にしている。	昨年7月開所したばかりで、正直なところこの項目についての活動はまだ行っていない。事業所が主導する面があるが、利用者さんの要望・意向を勘案していく。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5		迅速に対応できるようにしている。	周知・説明し、相談の申し入れがあれば迅速かつ適切な対応に努める。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5		・月1回の通信や、LINEでの連絡体制を整える等の工夫をしている。 ・可能な範囲で通信を発行したり、ホームページで事業所の紹介をしたりしているのは良いと思う。	通信の発行を続けていく。現在は経営母体のNPO法人のホームページで情報発信しているが、間もなくこの事業所のホームページを開設する予定である。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5			十分の留意してきており、今後ともそうする。
43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5		分かりやすく情報提供する。適宜、意向を確認するようにしている。	その努力をしているが、さらにそれぞれの子どもについての適切なコミュニケーションについて探っていく。	

非常時等の対応	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	2	3	まだできていない。	地域住民の招待等は実施できていないが、経営母体のNPO法人や相談事業所を通して地域の障害福祉事業所とは活発に交流しており、これを当事業所の運営にも生かしていく。
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	3	2	マニュアルを策定しているが、訓練は未実施。発生を想定した、対応については、口頭で確認済み。訓練は今後行う予定。	周知や訓練はこれから行う。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	3	2	定期的な訓練等は今後行っていく予定。	策定しているが、訓練はこれからである。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5		確認し、職員間で情報共有している。また、その情報をいつでも確認・閲覧できるようにしている。	確認しており、今後もそうしていく。
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4	1	今のところ、対象児がない。利用者には対応していく。	確認しており、今後もそうしていく。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	3	2	安全管理に関わる研修や訓練実施の際は、必ず参加するように心がける。	今後行う。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	3	2		今後より充実していくようにする。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4	1	ヒヤリハット発生の場合は、職員間で情報共有し、再発防止や対策を迅速に行うようにしている。	今後より充実していくようにする。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	4	1	研修の際は、必ず参加するように心がける。	今後より充実していくようにする。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	3	2	現在対象者おらず。必要なケースがある場合は、こどもや保護者ंनी十分に説明を行い、職員間での情報共有とともに支援計画への記載を行う。	これまで身体拘束の必要がなかったが、様々な場合を想定して今後取り組む。